

～BITAS Executive Series 2015 in Bali の参加報告～

Iasa 日本支部代表 塩田宏治

2015年5月26日～29日、インドネシアのバリ島にて、BITAS (Business IT Architecture Series) Executive Series 2015 カンファレンスが開催されました。これはアジアパシフィック地域で毎年行われているビジネス及び IT のアーキテクチャに関するカンファレンスで、Iasa が長年に渡ってサポートを行っているものです。このうち Executive Series は、政府系機関、民間企業、団体組織等の役員やマネジメント層など、各組織のキーマンが中身の濃いディスカッションを行う場となっています。

2015年の BITAS Executive Series は、インドネシア政府機関やインドネシア企業のみならず、アディダス社などの多国籍企業、マレーシアの国立心臓病センター (IJN) や政府機関の方、日本企業からもご参加がありました。また、アメリカ、オーストラリア、香港、マレーシア、インドネシアなど、多様なスピーカーによる講演があり、日本からはアイ・ティ・イノベーション社の林社長及び Iasa 日本支部代表の塩田の2名が登壇いたしました。



基調講演は、ガートナー社リサーチディレクターの Darryl Carlton 氏が行い、デジタルエコノミーにおける社会やビジネスに対するインパクトと変革の必要性を次のように語りました。「企業が迅速に (アジャイルに) 変革し企業全体のアジリティを上げるためには、現在普及が進んでいるアジャイルなソフトウェア開発の手法だけでは不十分だ。複雑なポートフォリオをマネジメントしながらビジネスプロセスを最適化し、アプリケーションを効率化していく必要がある。さらに、技術・ソリューション中心の目線から顧客の目線への移行が重要だ。例えば、モバイル戦略を考えると、スマートフォンに対抗する戦略を考

えるだけでは技術やソリューション面からの発想の枠に留まってしまう。顧客の目線から見てモバイルとは何であるか、に目を向けることが重要だ。」

またアイ・ティ・イノベーション社の林社長は次のように述べました。

「企業戦略を実現するために EA(Enterprise Architecture)が重要であり、EA は変化を実現し、組織全体の一貫性を担保する重要なメカニズムである。こうした組織レベルでの変化を起こすには、イノベーションを起こすチェンジリーダーとしてのスキル、変化をデザインし計画を立てるスキル、変化を実現したいというパッションが必要である。」

マレーシアの国立心臓病センター (IJN) の活動報告は非常にユニークで、組織変革のひとつのかたちとして大変参考となりました。IJN はマレーシアにおける心臓病の最高レベルの医療機関として、最先端医療を研究・導入し、患者に提供しています。今回登壇したのは、医療現場で自ら執刀するドクターでありながら、組織全体を変革するアーキテクトとしての職務も担っている Dr. Aliffin 氏で、次のような内容でした。「IJN はマレーシアにおける心臓病の最高レベルの医療機関として、最先端医療を研究・導入し、患者に提供している。患者の安全を最優先とする基本理念は昔から何も変わらないものの、近年のデジタル技術の進歩は医療の体制にも大きなインパクトを与えてきている。こうした新しい時代に向けた医療サービスの変革を実現するために、IJN では EA のフレームワークを導入し、推進チームをアーキテクトとして育成するプログラムを実行している。医療における新しい中長期の変革ロードマップを描き、それを実現するガバナンス、医療プロセス、リソースマネジメント、IT システムの4つのアーキテクチャマネジメント要素を定義して改革を実行し、人々を変えていくためのチェンジマネジメント活動を推進している。」

インドネシア最年少で Professor に就任した Prof. Eko 氏による講演は、機知に富み、笑いの絶えない素晴らしいものでした。氏は戦略的な IT プランニングの策定と実行において、ビジネスアーキテクチャが全てのアーキテクチャの起点であることを強調し、ビジネスプロセス改善の手法について解説しました。

Iasa のアジアパシフィック地域代表である Aaron 氏は次のように語りました。「事業のアジリティを高めるには Iasa が言う BTS (Business Technology Strategy)、つまりビジネス戦略と IT 戦略の整合を図る活動が重要である。また、FSN(Framework, Skill, Notation) の3つの能力を獲得することが、企業全体を支えるアーキテクトとして重要である。企業全体の EA をガバナンス及び推進する組織としては EAO(Enterprise Architecture Office) が大きな役割を果たす。パフォーマンスを発揮できるアーキテクトとして必要な能力及び実務で最も時間をかけるべきことは、ステークホルダ・エンゲージメントのマネジメントである。」

Iasa 日本支部代表理事である塩田氏は、「企業の能力の変革はビジネスレイパビリティの変革である。ビジネスアーキテクチャの変革デザイン・計画・推進を行うアーキテクトと、変革を現場で実組織に実際に導入・定着を行うビジネスアナリストの両輪が、実務組織上重要である。」と説明しました。また、プロジェクトを推進・モニタリングする PMO 組織との連携や役割モデルについて述べるとともに、日本における EA 適用の事例も紹介しました。

APMG International 社の MK Choong 氏は、ガバナンスの重要性と、その適用に当たっても、ビジネス・ベネフィット実現の目線から考えなければならないことの必要性を説きました。

Iasa 香港支部代表の Franky 氏によるプレゼンテーションでは、EA の組織的成熟度を測定する手法とその事例が紹介されました。成熟度の測定を行うことで、現在の能力と目指すべき能力とのギャップを明確にすることができます。氏はそのギャップを埋めるためのアクションについても説明しました。

Iasa Global の本部からは、世界中の Iasa 支部のハブとなるコミュニケーション担当ディレクターである Damaris 氏が講演を行いました。Iasa のさまざまなプログラムや ITABoK の展開等、Iasa がグローバルレベルで行っている活動が紹介され、Iasa によるビジネス/IT アーキテクトの育成活動がますます世界に広がってきていることを感じさせました。また ITABoK Version2 が 2015 年 9 月にリリースされることが告知されました。ビジネス及び IT のアーキテクトのスキルセットにフォーカスしてまとめている標準は、ITABoK のみであると言えます。この ITABoK Version2 は日本支部により日本語版も提供される予定です。

Iasa 日本支部は、海外の Iasa 及びビジネス及び IT のアーキテクチャの動向をウォッチしながら、日本におけるアーキテクトの育成に力を注いでいます。今回のような国際カンファレンスに日本からもより多くの方にご参加いただき、他国からの参加者との意見・情報交換をする中で、アーキテクトとしてビジネス及びそれを支える IT システムの変革を実現するためのスキルを身につけていくこともまた、これからの日本でのビジネス変革には必要不可欠であると考えています。

本年 10 月 21 日（水）には国内でもカンファレンスを開催いたします。Iasa アジアパシフィック代表の Aaron 氏を始めとする登壇者を迎え、様々なアーキテクチャとそれに関連するトピックを議論する予定です。そのほか、Iasa が提供する ITABoK についても、内容をご紹介するセミナーを定期的に開催しています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

詳しくは Iasa 日本支部のウェブサイト(<http://www.iasajapan.org/index.html>)をご覧ください。